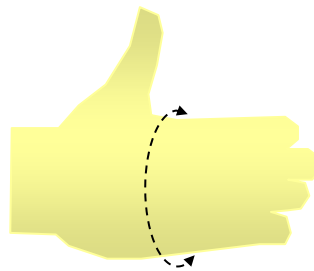


EA354BG-2, -3, -4 (薄手溶剤手袋)

EA品番	サイズ
EA354BG-2	M
EA354BG-3	L
EA354BG-4	LL

《仕様》

- 5双入り
- 材質… ポリウレタン
- 全長… 30cm
- 肉厚… 0.2mm
- 極薄タイプ



めやす:このメーカーのLサイズは、手のひら回り、約22.5cmです。

《特長》

1、耐油・耐溶剤性

耐溶剤用としてつくられていますが、すべての溶剤に対応できるものではありません。有機溶剤の中には、手袋を膨潤させたり溶かしてしまう物もあります。ご使用前には必ず使用可能範囲であるかどうかを別項の面積膨潤倍率表で確かめて下さい。

2、耐摩耗性

ダイロップ手袋に使用されているポリウレタンは、他の一般的な樹脂製手袋の樹脂に比べて、耐摩耗性に優れています。皮膜が薄いのでバリ等の鋭利なものには十分注意して下さい。

《面積膨潤倍率表》

面積膨潤倍率：表面を形成している樹脂の皮膜を溶剤の中に30分間浸漬したときの表面積の比率を表しています。

使用可能範囲の目安

膨潤倍率：1.2以下

単位：倍（浸漬前「1.0倍」）

溶剤名	膨潤倍率	溶剤名	膨潤倍率
石油ベンジン	1.1	メタノール	1.1
ガソリン	1.1	イソプロピルアルコール(IPA)	1.1
n-ヘキサン	1.0	エチルエーテル	1.1
トルエン	1.2	1,4-ジオキサン	溶解
キシレン	1.2	テトラヒドロフラン(THF)	溶解
スチレン(モノマー)	1.5	アセトン	1.7
ベンゼン	1.5	メチルエチルケトン(MEK)	1.7
四塩化炭素	1.2	メチルイソブチルケトン(MIBK)	1.3
I. I. I-トリクロロエタン	1.4	酢酸メチル	1.7
トリクロロエチレン(トリクレン)	1.6	酢酸エチル	1.5
テトラクロロエチレン(パークレン)	1.2	メチルセロソルブ	1.5
クロロベンゼン	1.5	エチルセロソルブ	1.3
1,2-ジクロロエタン	2.0	シクロヘキサノン(アノン)	3.2
ジクロロメタン(塩化メチレン)	2.4	ジメチルホルムアミド(DMF)	溶解
クロロホルム	2.6	二硫化炭素	1.1

注意

- ① 同一溶剤であっても手袋の使用方法・時間等の状況の相違により、耐久度は変化しますので、一応の目安にして下さい。
- ② 膨潤した場合は、手袋の使用を中止してもとの大きさに戻ってから再使用して下さい。その場合、品質の低下はほとんどありません。

《 取扱い上の注意事項 》

ご使用の際は、下記の事項を必ずお守り下さい。

● 危険

- ① 引火物を扱った後は手袋を火気に近づけないで下さい。着火する危険があります。
- ② 電気作業には使用しないで下さい。感電する危険があります。

● 警告

- ① とがった物や刃物などで、手袋にキズをつけないよう注意して下さい。キズができると、液体が浸入したりして危険です。
- ② 0℃～40℃の範囲内で使用して下さい。
- ③ 酸・アルカリに使用しないで下さい。
- ④ ガス状での透過は防止できません。保護クリームの塗布や内側に透過保護用の手袋を着用するなど、透過に対する手の保護行ってください。(特に発ガン性物質や刺激のある有機溶剤には注意が必要です。)
- ⑤ 扱った液体が付着した手袋で、人体や他の器物に触れると危険です。
- ⑥ 油や溶剤を使用した後の手袋は、それらを少し吸い込んでいます。そのまま室内に放置すると手袋からガスが充満する可能性があります。よく乾燥させてから保管して下さい。

● 注意

- ① ご使用前には必ず、手袋にキズ・ピンホール・破れなどが無いことをよく確かめてから作業して下さい。(警告①を参照して下さい。)
- ② 皮膜が薄いのでバリ等の鋭利なものには十分注意して下さい。
- ③ 液体が付着すると滑りやすくなりますので注意して下さい。
- ④ 油・有機溶剤・化学薬品等を扱う際は、手にキズのある人は使用しないで下さい。
- ⑤ 使用中に赤み・はれ・かゆみ・刺激等の異常が現れた時は、ただちに使用をやめて下さい。皮膚科専門医へのご相談をおすすめします。
- ⑥ 手袋が塗装面に触れると、塗料によってはハジキを発生させることがあります。ご使用の際には十分注意し、確かめてから使用して下さい。

● 保管方法

使用後は汚れや付着した液体をよく落とし陰干して下さい。手袋を長時間日なたに放置すると劣化が促進されます。保存する場合は十分に乾燥させて直射日光を避けた風通しの良い所で保管して下さい。(警告⑥を参照して下さい)